

文化遺産ニュース

Cultural Heritage News
from NARA

Vol.

37

March 2025

◎ 集団研修	1
◎ 文化遺産ワークショップ(ベトナム)	2
◎ 個別テーマ研修(ラオス)	3
◎ 国際会議「世界文化遺産とオーセンティシティ」	4
◎ 文化遺産セミナー「古代ガラスロードが読み解く飛鳥の東西交易」	5
◎ ICCROMとの覚書締結	5
◎ 世界遺産教室	6

ホーチミン市とカッティエンの文化遺産

裏表紙



集団研修

2024年8月26日から10月4日までアジア太平洋地域15か国からの15名の研修生を対象に「考古遺跡の調査記録と保存活用」をテーマにオンラインと招聘で実施しました。



脆弱遺物の取り上げ実習(奈良文化財研究所)



土器接合実習(奈良県立橿原考古学研究所)



薬師寺発掘現場の視察(奈良文化財研究所)

集団研修は、ACC奈良事務所がおこなう人材養成の中核事業です。「木造建造物」と「考古遺跡」の2種類の研修テーマを、基本的には隔年で交互に実施していて、2024年は考古遺跡をテーマにしました。

15名の研修生は、政府機関や博物館などで、自国の文化財保護に携わる若者たち(平均年齢30代半ば)で、多くが考古学関連の現場で活躍中です。

研修は2023年度からオンラインと招聘のハイブリッド型式で実施しています。オンラインでは動画の配信に加えて双方向セッションを4回実施し、ビデオ教材に対する質疑応答など意見交換と共に臨地研修の事前学習もおこないました。それらの基礎的な学習

を踏まえた上で、9月20日からの招聘研修では、参加国のレポート発表と討議の他、奈良文化財研究所や橿原考古学研究所の御協力を得て発掘調査現場での実務に関する実習や考古遺物の調査観察と記録の実習をおこない、なら歴史芸術文化村、世界遺産沖ノ島、吉野ヶ里遺跡、九州国立博物館を見学しました。

オンラインの講義にはビデオ教材を自分のペースで受講できるという利点があります。一方、現地研修では実際に考古遺物をじっくりと観察し、作業を通じて学ぶという実体験を得ることができます。ハイブリッド型式を有効に活用することでオンラインでも対面でも熱心な議論が交わされました。

参加国

ブータン・インド・インドネシア・ラオス・マレーシア・ミクロネシア・ミャンマー・パキスタン・パラオ・フィリピン・スリランカ・タジキスタン・タイ・東ティモール・ウズベキスタン

カリキュラム(概要)

■動画による講義

「世界の文化財保護の現状と国際憲章」「考古遺跡の保存と管理」「文化遺産の遺産影響評価とその他の課題」「日本の文化財保護制度」「埋蔵文化財保護の仕組み」「考古遺跡の調査法Ⅰ(日本における発掘調査の手順・様々な調査法)」「考古遺跡の調査法Ⅱ(型式学と層位学からの年代決定)」「考古遺跡の調査法Ⅲ(考古学調査におけるデジタル技術)」「考古遺物の復元(土器の接合・補填・実測)」「考古遺物における調査手法の紹介」「考古遺物の写真記録(セッティング・撮影技術)」「日本における遺跡の整備活用」「世界文化遺産の遺産影響評価」

■実習

「脆弱遺物の取り上げ法」「考古遺物の調査と記録Ⅰ」「考古遺物の調査と記録Ⅱ」

■臨地研修

(奈良市)東大寺・薬師寺／(奈良県橿原市)橿原考古学研究所附属博物館／(奈良県天理市)なら歴史芸術文化村／(福岡県宗像市)世界遺産沖ノ島／(佐賀県吉野ヶ里町)吉野ヶ里遺跡／(福岡県太宰府市)九州国立博物館

■報告・討議

研修生各国のケーススタディについての報告と意見交換、ファイナルレポートの発表



博物館資料の3Dモデル作成実習

文化遺産 ワークショップ

2024年10月21日から26日まで
ベトナム社会主義共和国のホーチ
ミン市とカッティエン遺跡で実施
しました。



屋外での写真撮影の様子

ベトナムでのワークショップは、2009年にホイアンで木造建造物を対象におこなって以来となります。今回は「考古遺跡・博物館収蔵品の3D記録とその活用」をテーマに実施しました。ワークショップは海外の現地での講義と実習を中心に構成し、現地語での説明を通じて理解を深めることができるように特徴があります。

研修は、2022年にオンラインでおこなった個別テーマ研修の実践編に当たるもので、ホーチミン市を中心とするベトナム南部から文化財の専門職員が計15名参加しました。講師は奈良文化財研究所の山口欧志さんと榎原考古学研究所の鈴木朋美さんが務めました。まず最初にホーチミン市にあるベトナム



講師による高所撮影の実演

ム南部社会科学学院考古学研究センターで講義をおこなった後、ラムドン省にあるカッティエン遺跡へと移動しました。カッティエン遺跡は発掘調査の後に、検出したレンガ造の遺構をそのまま覆い屋をかけて現地保存しています。この遺構を手順を踏んで詳細に写真撮影し、データから三次元のモデルを作成しました。また現地博物館収蔵の資料のレプリカを使って遺物に関する3D記録の作成実習も実施しました。参加者は、良好な三次元モデルが取得できるまで写真撮影をやり直すなど、熱心に取り組んでいました。

研修生の皆さんには、学んだ成果を国内各地での実務に活かしてもらえ

■カリキュラム

■講義
「考古遺跡の3D記録」「博物館収蔵品の3D記録(オリエンテーション)」「考古遺跡・博物館収蔵品の3D記録総括(デモンストラーション)」

■実習
「考古遺跡の3D記録」「博物館収蔵品の3D記録」

■グループワークと討論
実習成果のグループ発表と講評、討論



参加者の皆さん

個別テーマ 研修

2024年11月18日から29日まで、ラオスの12名の研修生に対し「考古遺物のデジタル記録とその保存活用」をテーマにオンラインで実施しました。



オンライン講義(奈良文化財研究所写真場より配信)

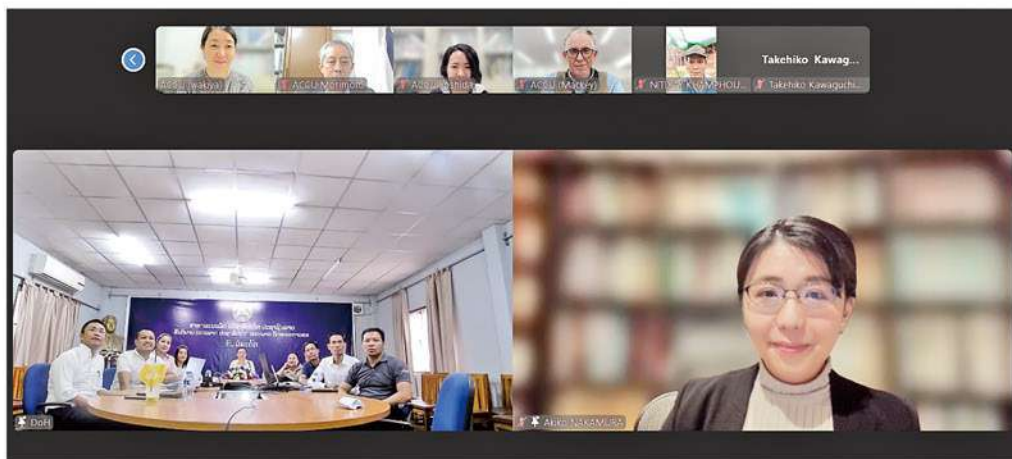


中村一郎さんによるオンライン実習

本年はラオス人民民主共和国を対象に考古遺物でのデジタル技術活用に関する研修を実施しました。個別テーマ研修の特徴は、参加者の要望に沿ったオーダーメイドのカリキュラムを編成できることと、英語以外の言語でも開催可能なことにありますので、オンラインでもその特質を活かしています。

考古遺物を調査記録する際には文化財の特徴を正確に表現するような写真を撮影することが重要になります。形状を三次元で記録する場合でも適切な写真が基礎的な素材として必要です。このため文化財写真に関するビデオ教材を用意し、それを学習した上で、

総括にあたる遺物の撮影方法に関するライブ授業をおこないました。講師は奈良文化財研究所の中村一郎さんです。適切な絞りを設定することの重要性などを強調しました。また、ライティング技術などは実際に双方方向のやり取りをしながら効果的に学ぶことができましたと思います。



講師の中村亜希子さんと参加者の皆さん

その後、独立研究者の中村亜希子さんによる三次元記録に関するライブ講義を実施しました。この手法は形状を記録するだけではなく、取得したデータの活用事例として博物館展示でも利用されています。良質の三次元モデルを作成するためのヒントをたくさん提示できたと思います。

配信した講義用ビデオは、文章をラオス語に翻訳し、講師の説明もラオス語に吹き替えたものを用意しました。

質疑応答とデモンストレーションは、Zoomを活用し、ラオス語でおこないました。双方方向の討議を4回おこないましたので、研修生からの質問に対して詳しく回答することが可能となりました。

情報文化観光省遺産局と国立博物館の担当者からなる研修生の皆さんが新しい技術を活用した調査研究・公開展示を実践することを願っています。

カリキュラム(概要)

■動画による講義

「文化財写真の基礎知識」「撮影機材の種類とその特徴」「遺物撮影のライティング技術」「立体遺物の撮影方法」「平面遺物の撮影方法」

■実演講義

「平面遺物の撮影方法」「立体遺物の撮影方法」「考古遺物のSFM-MVS方法を用いた3D記録とその活用」「考古遺物の3D撮影画像」

■質疑応答(オンライン)



会議の様子

国際会議

2024年12月17日から19日、文化遺産保護に携わる6か国の実務担当者を招聘し、カナダ・韓国・ニュージーランドとはオンラインで結んで「世界文化遺産とオーセンティシティ」をテーマに意見を交わしました。



会議の様子

1994年にオーセンティシティ(真正性)に関する「世界文化遺産奈良コンファレンス」が開催されて30周年を迎えました。奈良会議で採択された「奈良文書」は現在も文化遺産保護の分野に大きな影響を与えるとともに、国ごとに様々な解釈も生まれ世界遺産の実務においては共通理解の再確認が必要な状況も生じるようになっていきます。そこで今回、当時の会議参加者による奈良文書成立の思いや目的を正確に記録する



法隆寺でのエクスカーシオン参加者の皆さん

とともに、奈良会議から何ができて何ができてこなかったかを考える場を設けることにしました。文化庁、ウィトラップ上海との共催です。
17日の世界遺産法隆寺でのエクスカーシンの後、18日は、はじめに主催者挨拶に加えイクロムのグジュラル所長からビデオレターを頂戴しました。その後カナダのキャメロンさんが基調講演をオンラインでおこない、続いて3件の講演で世界遺産の実務における

オーセンティシティの取り扱いを検討しました。
二日目の19日は、災害復旧時を例にその過程で生じた課題からオーセンティシティを考えると題して、日本、フランス、中国、ニュージーランド、韓国の例を講演し、総合討議をおこないました。
奈良会議での議論では、異なる文化的多様性を尊重し、様々な文化的・地理的文脈における保存の決定に関する議論を促す必要性が広く知られていました。現在も生きて活用

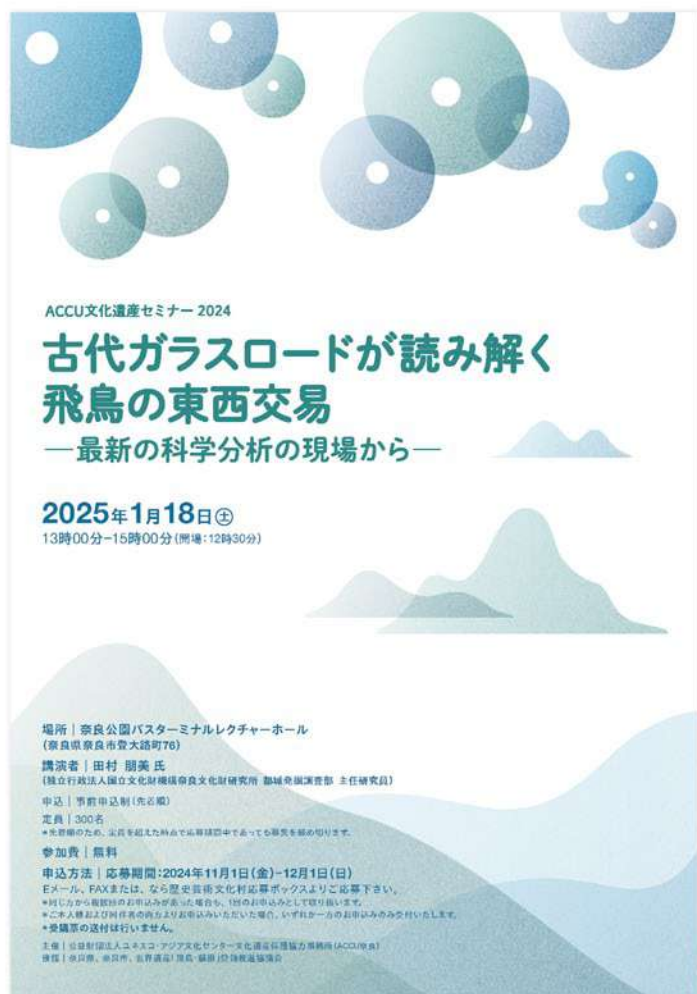
されているリビングヘリテージには継続と変化という固有の特徴があるので、生きた遺産を維持するために必要な創造性、革新性、適応性という見方から、オーセンティシティをどのように捉えたらいかがが今日の課題として残されています。また災害前の減災・防災、災害後の復興において、遺産の属性や価値を通じてオーセンティシティを考えるためには、災害前から積極的にオーセンティシティとリスク軽減の関連性を考えておくことが重要であることも示されました。
この会議のインターネット経由配信には224名のオブザーバーが参加しました。



田村朋美さんの講演の様子

文化遺産
セミナー

奈良公園バスターミナルレクチャーホールで「古代ガラスロードが読み解く飛鳥の東西交易」と題して開催し217名の方が受講しました。



セミナー開催案内のポスター

奈良県では新たに「飛鳥・藤原の宮都」の世界文化遺産への登録を目指しています。飛鳥の遺産は外国からの大きな影響を受けて成立しており、外国との交流の実態を保存科学の視点から明らかにしたいと、講演会を企画しました。

奈良公園バスターミナルレクチャールームを会場として2025年1月18日、奈良文化財研究所の田村朋美さんに「古代ガラスロードが読み解く飛鳥の東西交易最新の科学分析の現場から」と題して講演をしていただきました。

最初に奈良県世界遺産室の森井順之さんが世界遺産登録に向けての取組み

を発表して、参加者の皆さんは世界遺産の仕組みなどを頭に入れた上で田村さんの講演に臨みました。

講演では、日本ではビーズなどのガラス製品が弥生時代から見られそれらが世界の各地から製品としてもたらされたものであることが述べられました。時期によって主流となるガラスの種類が変化し、日本国内での出土地も中心が移り変わる様子が分析結果から示されました。飛鳥時代には、飛鳥の地でガラス素材の生産も開始されたことが遺跡から出土した遺物によって裏付けられています。

イクロムとの 覚書の締結

2024年5月9日にローマにあるイクロム(ICCROM／文化財保存修復研究国際センター)との間で覚書の調印をおこないました。

イクロムは、文化遺産の保護を推進するために1959年にユネスコがローマに設立した国際的な政府間機関で130以上の国が加盟しており、ACCU奈良事務所がこのような各種事業のなかで、特に集団研修と国際会議の開催に際して、大切なパートナーとなっています。日本からも、文化庁が専門の職員を派遣しています。

イクロムの本部で所長のア

旅する世界遺産研究家 久保美智代



愛媛県八幡浜市出身
50カ国以上、416カ所を訪問
奈良・姫路・京都に在住・終戦
講演会やパネル展を開催し
世界遺産の魅力を伝える



久保美智代さんによる授業(法隆寺国際高校)

世界遺産 教室

奈良県内の高校生ら600名近く
が受講しました。



佐藤史佳さんによる授業(奈良市立一条高校附属中学校)

奈良県内の高校生等を対象に、出前授業をおこない、世界遺産に関する知識を深めるとともに文化遺産保護の大切さを理解してもらうために世界遺産教室を開催しています。今年度は高校4校で計7回と、中学校1校で1回の教室を開きました。歴史や観光を学んでいる学校からの要望が多いという特徴がありました。また、教職員を対象とした教室も1回開催しました。

奈良県は数多くの文化遺産に恵まれ、世界遺産も現在3つあります。そこで奈良県の歴史と文化について学ぶことを足がかりに、日本全体として世界へと視野を広げて世界遺産条約が生まれた背景や目的・意義、世界遺産の現状と課題について学ぶ場を提供する世



久保美智代さんによる授業(奈良県立大学附属高校)

界遺産教室の果たす役割は大きいと考えています。

講師は長年、世界遺産教室の講師を務めておられる、フリーアナウンサーの久保美智代さんに多くをお願いし、1校では学校の要望に応じて正倉院事務所の佐藤史佳さんに講師をお願いしました。受講生の皆さんは、世界各地の世界遺産を現地で撮影した美しい映像を見て、クイズなども交えた講師の熱い語りを熱心に受講していました。

開催校

法隆寺国際高校・奈良商工高校(4回)・奈良県立大学附属高校・高田高校・奈良市立一条高校附属中学校



覚書の調印



イクロム本部の建物

ルナ・フランチェスカ・マリア・グジュラル氏とACCU奈良事務所長とが覚書に署名し、25年間の協力事業を確認するとともに、さらなる協力関係を構築していくことを再確認しました。

ホーチミン市と カッティエンの文化遺産

表紙の写真：郵便局



ベトナムでは8件の世界遺産が登録されており、そのうち5件が文化遺産です。もちろんそれ以外にも貴重な文化遺産がたくさん残されています。今回はカッティエン遺跡とホーチミン市の歴史的建造物を紹介します。

カッティエン遺跡はベトナム南部ラムドン州にある紀元4世紀から9世紀のヒンドゥー教に関わる遺跡で、巨大なリングを祀る寺院跡など

があります。ACCUはこの遺跡を会場として研修をおこないました。レンガ造りの建物跡は発掘調査の後に覆い屋がかけられ保護されて遺跡公園となっており、博物館も隣接しています。

ホーチミン市はベトナムで最も人口が多い都市でフランスの植民地にされていた時期の建物がいくつか残されていて現在も利用されています。



上左・右：カッティエン遺跡 下左：ホテルコンチネンタルサイゴン 下右：ホーチミン人民委員会庁舎（通称：ホーチミン市庁舎）

公益財団法人 ユネスコ・アジア文化センター 文化遺産保護協力事務所

Cultural Heritage Protection Cooperation Office, Asia-Pacific Cultural Centre for UNESCO



〒632-0032 奈良県天理市杣之内町437-3
(なら歴史芸術文化村 文化財修復・展示棟2階)

TEL 0743-69-5010
FAX 0743-69-5021
URL <https://www.nara.accu.or.jp/>
E-mail nara@accu.or.jp

交通アクセス

近鉄・JR天理駅から ●バス1番のりばから直行シャトルバス